

# Bibliophiles

## ビブリアファイルズ No.6(2020年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



### 『ゴーマニズム宣言 special コロナ論』 小林よしのり

今年「新型コロナウイルスの年」として後世に記憶される年になりました。学校も3ヶ月ほど休校になり、学校祭はじめ色んな行事も中止や延期、規模縮小となりました。かつて誰も経験したことのないような感染拡大でしたが、果たして、ああした休校や緊急事態宣言は本当に必要だったのでしょうか? 「必要なかった」というのが漫画家・小林よしのりの結論です。この漫画はさまざまな角度から今年の「コロナ禍」を論じた意欲作です。一度手に取って見て下さい。

### 『日本製』 三浦春馬

今年の7月に惜しくもその30年の生涯を閉じた俳優・三浦春馬氏の、残念ながら遺作となってしまった本です。内容は、ある雑誌の人気企画で、三浦氏が47都道府県の「日本の伝統」を体験するというものです。例えば、兵庫県なら日本遺産にも認定された「赤穂の塩田」におもむいて海水からの塩作りを体験しています。三浦氏が4年をかけて巡った全国津々浦々の「メイドインジャパン」を、豊富な写真と共に楽しみ下さい。なお、この本の収益の一部はラオスの小児病院に寄付されることになっています。

### 社会科の先生方による選定本も入りました！！

先生方にも、毎年図書館の本を選んでいただいています。今年社会科の先生方が選んだ本のタイトルを見てみると、「地方創生」「人口減少社会」「持続可能な地域」「コミュニティ防災」・・・など現代社会のキーワードとも呼べる言葉がずらり。すぐにでも学校の学習に役立つような内容ばかりですね！ 広井良典『人口減少社会のデザイン』で作者は、先進国の中でも抜きん出て人口減少が進んでいる日本の将来像を、AIを使ってシミュレートしました。すると「今から10年以内に日本を〇〇型社会にするか△△型社会にするかを決めないと手遅れになる」ことが分かったのです。はたしてそれは・・・

※漫画も多く取りそろえています。最近では『キングダム』『ONE PIECE』『ホリミヤ』最新刊が入りました！

### ☆今年も、生徒による本の選定本が入りました☆(第1弾)

今年にはコロナウィルスの影響もあって、生徒の選定委員が4名しか立候補がなかったのですが、メンバーはみなよく頑張って多くの魅力的な本を選んでくれました。

山田悠介『俺の残機を投下します』は、コンピュータゲーム競技「eスポーツ」を題材とした新感覚の近未来小説。高校生の頃から格闘ゲーマーとして名を馳せた主人公は、30歳となった今、スランプに陥っていました。そんな主人公の前に「残機」を名乗る自分そっくりな3人組に遭遇します。話を聞くと、この同じ顔の男たちは主人公に危機がおとずれると自動的に身代わりになって消える運命にある、と言うのですが・・・浅倉 秋成『教室が、ひとりになるまで』は、息をのむような展開と謎解きが持ち味の、青春ミステリーです。とある私立高校で3人の生徒が立て続けに自殺をします。「私は教室で大きな声を出しすぎました。調律される必要があります」という、同じ内容の遺書を残して。しかしある生徒の証言から事件は新しい展開に・・・お笑いコンビ・オードリーの若林 正恭のエッセイ集『ナナメの夕暮れ』は、芸人らしくどのエッセイも書き出しの「つかみ」はバッチリ。『幼稚園の時に、祖母や母親に「大人になったら何になりたいの?」と聞かれて「科学者」と答えていた。そう答えると祖母と母親がなぜか喜び、食卓の雰囲気が明るくなるからだ。ちなみに科学者になりたいなんてまったく思っていなかった。』この先も読みたくなりませんか?・・・台湾の作家・呉明益による『歩道橋の魔術師』(原名『天橋上の魔術師』)は来年夏にテレビドラマも公開が予定されている話題作です。この連作短編集の舞台は巨大な商店街で、8棟からなり、建物の間には歩道橋がかかっています。その橋の上で子どもたちにマジックを披露する魔術師がいたのですが・・・



『ヒロシのソロキャンプ～自分で見つけるキャンプの流儀～』ヒロシ

「自虐ネタ芸人」として一世を風靡したヒロシは、今やチャンネル登録者数が100万人に迫る YouTuber に転身していました！人気の「ヒロシちゃんねる」の動画の内容は、キャンプ。あまりのキャンプ好きが高じてキャンプ用の山を買ってしまったヒロシが始めて出版した本が、これです。初心者にも優しい内容ですよ。

### 今号のひとこと

Nicht Bach, sondern Meer sollte er heissen, wegen seines unendlichen unausschöpfbaren Reichthums von Toncombinationen und Harmonien. バッハは小川 (Bach) ではなく大海 (Meer) という名前であるべきだったのだ、彼の生み出した無限に汲み尽くせないほどの豊かな音の組み合わせとハーモニーゆえに。

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770-1827) フロイデンベルク作『ある老オルガニストの一生の思い出』より、クラシック音楽の代名詞とも呼べるベートーヴェンの言葉です。彼と同じドイツの先輩作曲家のバッハの偉大さを称えた言葉ですね。バッハという名が「小川」という意味なのにちなんでも、その音楽の豊かさはむしろ「大海」という名に値する、と述べています。